

## 建設水道委員会会議録

### 1. 開催年月日

令和元年 7月12日 開会 9時54分 閉会 10時54分

### 2. 開催場所

委員会室

### 3. 出席委員名

三宅文雄 多賀信祥 細羽敏彦 西田久志  
佐藤 豊

### 4. 欠席委員名

なし

### 5. その他の会議出席者

#### (1) 事務局職員

主 査 柳本兼志

### 6. 傍聴者

(1) 一般 0名

(2) 報道 0名

### 7. 発言の概要

**委員長（三宅文雄君）** ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

本日の協議事項は、議会への提案の回答についてと委員会行政視察についてでございます。

#### 〈議会への提案の回答について〉

#### 〈別紙、回答案のとおり決定〉

#### 〈行政視察について〉

**委員長（三宅文雄君）** 現在までの協議内容としましては、資料にありますとおり、日程については第1候補としまして10月15日から18日の週のうち3日間、第2候補としまして11月11日から13日としておりました。

視察希望先については、多賀副委員長から推薦していただいた糸魚川市の地元消費啓発活

動について及び魚津市の地域商社による魚津の食ブランディング事業についてを優先的に依頼するという事で意見統一が図れたように思います。他の視察希望先や視察希望テーマについては、それ以前の委員会においていろんな声は出ていました。今回は、このような意見を踏まえた上で、糸魚川市と魚津市が視察を引き受けてくれることを前提に事務局において他の視察候補地の選定をしていただいております。

まず、この候補地について事務局から説明をお願いしたいと思います。

**主査（柳本兼志君）** 議員連絡箱に配付させていただいておりましたが、それぞれの候補地の資料を1つずつ簡単に説明させていただきます。

建設水道委員会行政視察の検討資料の視察希望先及び視察内容、1番から8番のうち、上の2つについては優先して依頼をするという話だったと思います。

1番上の資料が、糸魚川市で実施されている地元消費促進運動に関する資料でございます。

これは信用組合のほうでつくられている資料でございます、市役所だけでなく市民全体での地元消費について、いろんなところが推進をしていこうとしているものでございます。

2枚目の資料は、これは上越タイムス社という報道関係の資料でございます、本格クーポンブックを2,000部作成し、1,000円で発売するというニュースです。これにはいろんな割引やサービスがあります。裏側には、直売所の情報でございます。いろんな事業に取り組みされており、全体の事業としては、なかなか大きい活動だと思って見させていただきました。

これが、糸魚川市の地元消費活動、行政だけでなく民間も含めて取り組んでおられる活動でございます。

2枚目の資料は魚津市、こちらもぜひ行ってみたいと決定されているところの資料ですが、地域商社、地域の中のいろんなものの販売や情報発信などをまとめて進めていこうという事業で、魚津の場合は魚介類を中心とした食べ物での地域商社に取り組んでおられます。これは、国の大きな補助事業の採択を受けての事業であるというふうに伺っておりますが、実際この事業につきまして本当の総合商社に推進役として中に入らせていただいておりますが、事業は始まったばかりでございます。銀座等にも店を出して、魚津のホタルイカでありますとかそういったものを食べていただく活動も始められるというふうには聞いております。まだ始まったばかりで、どういった工夫や問題点があるというところまでの話が聞けないかもしれませんが、行政が中心として絡んでいろんな情報発信をしたり、実際販売をしていくという活動になっております。

よその市の地域商社でありますと、民間主体でやられているところは結構ありますが、行

政が絡んでいるのが魚津市の特徴だと思います。

以下3番目から8番目につきましては、前回までの皆さんの意見等をもとに事務局で選定させていただいております。委員会での検討の中に入れていただければと思っております。

まず最初は、千曲市でございます。きょう配付させていただきました資料の中に地図をつけていますが、これで大体の位置をご確認ください。糸魚川市と魚津市、海沿いで地図の真ん中のあたりにありますが、千曲市はこれらの南側、長野県になります。

こちらにつきましては、千曲ブランドというものを認定いたしまして、いろんなところで情報発信をしているというものでございます。これは、自分たちでブランドをつくって、どういうふうに売っていくかというのを実践されているという感じでございます。ブランドの認定制度というのを設けておまして、何でもかんでも全部千曲ブランドということではなくて、一つの考えに賛同していただけたら限定をして取り組まれております。

資料の5枚目以降にありますのが、この取り組みに関する論文がありましたので、なかなかおもしろい活動だが、こういうのはもっとこういうふうに直したらどうかとかという論文を資料として配布しております。このようにちょっと注目をされている事業であります。井原市でもブドウ等も地域ブランドとしてもやっておりますが、他の地域ブランドの開発、例えばデニムとかをもっと売っていきいたいとか、そういうふうな話になりますと、こういったブランディングといいますか、有名にさせていく事業も考えていかなきゃいけないと思いますので、参考になるのではないかと思います。この事業も大きな事業で、とりあえずこのまま井原市でもやってみよう、ちょっとやってみようという規模ではないようです。力を入れてブランドをつくっていかうとお金もかけてやっている事業だと感じました。

4番目になりますが、七尾市の資料をつけております。

位置をまた見ていただけたらと思うんですが、地図の左の上、石川県の中中部になります。北のほうは電車が全く通っていないんですが、七尾のところまでは電車も通っております。

こちらでされているのは中小企業の企業支援ということです。ななお創業応援カルテット、行政だけではない、創業を応援するカルテット、チームをつくって応援していくというふうな事業をされております。

特色のところを見ていただけたらと思うんですが、行政だけでなく経済団体また金融機関、また政府系の金融機関も入っておるようございまして、こういったところが全て連携をとりながら、中小企業の支援を行政だけでなく全部がかかわって、中小企業をこういうふうにしたらどうか、こういうふうにしたらどうか、お金の支援を相談してきたらこういうふうな貸し付けがあるよというものを一体でやられているところです。

資料の裏側になりますが、これは行政が作成しているもので、行政としてはお店のPRみたいなものにかかわっておられるようで、資料の後ろから2枚目になりますが、今度は商工会のほうが行われている事業、実際の創業のノウハウとかそういったことですね、そういったことは商工会のほうで面倒を見るよと。一番最後の資料では、お金の関係のことをまとめて書いてございます。

井原市も中小企業支援に関する事業にも多く取り組んでいくというふうに未来創造部では申しておりますし、そういった分野で先進的に早く始めておられるというところで、始めた後の困難な点等については勉強になるかもしれません。

あと、人口も資料に記載しておりますが、どこも大体井原市に似た人口規模のところ、何十万人都市で事業に何十億円もかけてしているところではないところを一応選定させていただいておりますが、次の柏崎市だけは少し人口が多いです。

資料をごらんください。柏崎ファンクラブですが、これは移住・定住も含めて地域を盛り上げていく。シティプロモーションではないですが、地域に人が帰ってきてほしいことからファンクラブをつくっておられます。

特色としましては、柏崎シティーセールス、やはりまちを有名にしよう、まちを元気にしようというようなモットーだというふうにして書いてありまして、現在、これも始まったばかりなんです、4,700名がファンクラブに登録しているそうです。ファンクラブの方には、いろんなサービスとかいろんな情報発信をしたりとか、そういったことをされております。それが実際にどれぐらいの効果があって、どういう面で効果がでているのかまでは、何年もやってないのでわからないかもしれませんが、情報発信を中心に大きなお金をかけて、一番上の資料を見ていただけたらと思うんですが、1,400万円ぐらいかけておられますんで、ただ単に職員によるソフト事業だけではないようです。

2枚目の資料ですが、シティーセールスに関する市の考えなんかもありますので、市をやっぱり有名にしていけないとまちがだんだん衰退していくというような、シティーセールスを推進していく必要があるという考えは持っておられるようです。一番下の資料と下から2枚目の資料の裏側にも、実際にどういう活動をしているかという参考資料をつけています。やっぱり若い人を中心にどうも情報発信を多くされてるようですが、その辺の戦略とかも資料では詳しくはわかりませんが、これからどこもシティーセールス、小さい市町もやっていくようにはなると思うんですが、なかなか実際のノウハウがどこもわかってない中で、参考になるかもしれません。

次ですが、勝山市、ここは一番井原市から近いんですが、福井県になります。少し内陸のほうに入っちはいきますが、井原市から魚津市、糸魚川市に行くには割と便利がいいかなと

というような地域でございます。

こちらは、またなかなか独特な事業ですが、ふるさと勝山回帰事業、Iターン、Uターン、Jターンを強力に推し進め、みんな帰ってこいというのを堂々と宣言されているところ  
です。お金もまたかけておられます。単年度の事業費で2,300万円。テレビやいろんな  
ところにPRもするし、いろんな人にも参加してもらおうというようなことで、規模のでかい  
I J Uターン促進事業というような感じでございます。

特色のところでございますが、やっぱり求職の関係でなかなか帰ってきてくれる人がいな  
いということで、そういった地域の中小企業等にできるだけ帰ってきてほしいというよう  
なところから、企業PRなんかもされておられますし、それと学生等へのマッチングなんかも  
お金をかけて、井原市のマッチングをやってみたけど誰も来ないからやめましたというレベ  
ルよりも、もっと大きい事業としてやっておられます。ただ、課題としては、やはりどこ  
でも同じようなところですが、1つの企業では人を呼ぶために大金は使えないので、やっぱり  
行政が中心となって、商工会なんかが中心となってまとめてやっていますが、実際に細かいマ  
ッチングなんかが難しいというようなことが書いてあります。

資料の裏側、ふるさと回帰事業のところ、9番、10番、11番、いろんなことをやって  
おられます。首都圏ふるさと納税推進事業、もちろん井原市でもやっております。ふるさと  
チョイスに載せて、いろんな品目を返礼品にしていくというふうにやっておりますが、それ  
を堂々と一つの事業としてお金をかけてやっていくということで、そういう推進の気持ちが  
強い市なんかではこういうふうに予算をしっかりとつけてやるのかもしれない。強引にやっ  
ているところは他にもいっぱいあると思います。もう、総務省から対象として外されそう  
なところもありますんで、そういった事業かもしれません。10番は移住就職支援事業とし  
て、補助金中心ではありますが、独特なものでは同窓会への支援、お金をあげますから同窓会  
は東京とかでやりなさんなど、全員こっちに帰ってきて盆とかにやってください。そしたら  
補助金を出すからとか、独特ですね。囲い込み的なニュアンスの事業を始めておられます。

次は加茂市でございます。加茂市は少し遠いです。新潟市の近くで、行くとなれば移動は  
大変です。ここの政策がまた独特です。市内の産業保護事業をどんどんしていく、アメリカ  
ファーストみたいなものです。地元消費よりどぎついといいますか、産業界に多くの支援を  
して、市内産業の保護もしますというような事業をやっておられます。具体的には農業者  
には農機具購入費のお金を出す、商工業には担保を必要としない200万円まで貸す。産業保  
護を強力にして産業界を潰さないというふうな政策をしております。そのほかの事業とし  
て、多くのところで取り組んでおられるような事業ももちろんやっておられます。

最後ですが、割と遠いところで小千谷市。地元就職サポート支援、おぢやしごと未来塾と

して、学校と連携して学生にどんどんかかわっていく。企業説明会をやっていますので来たかったら来てくださいねとかのレベルではなく、学校の1年生全員に来てもらい、市内企業の、この会社はこういうことをやっているのが自慢です、この会社はこういうふうなところがすごいということを、どんどん子供の頭の中に入れていくようです。それでどれぐらい効果があるのかわかりません。今は特に人手不足、今後もちろんそうでしょうし、そういった中で、ここぐらいまでやればもしかしたら地元の就職率というのが上がるのかもしれないと感じるような事業です。ここは割と古くから、平成27年度からやり始めてる。だから、よりよいやり方にも変えておられるでしょうし、今では大きい会場とかでクオカードなんかもプレゼントしながら、いろんな工夫をされて地元就職の促進をされております。中小企業支援や地域学習も含めまして、なかなかどれも力が入った事業と感じました。

説明は以上です。

**委員（佐藤 豊君）** 事務局に聞くんですけど、今、芳井の「まこと」の本井さんたちがしょうてでしょう。井原に愛着を持ってもらう、将来的には井原に就職して住んでもらって、井原のために頑張ってもらおうという、そういう人をつくってこうというような、それに似たようなことで小千谷市なんかも関連するのかなとも今話を聞きながら感じたんじゃないけど、ちょっとその辺は似るとるのかな、その辺どういうふうに感じますか。

**主査（柳本兼志君）** 井原市での事業ですが、一部の地域では、特に芳井地域なんかでは、地域としてだんだんと元気がなくなっているんだと、美星では観光に來られて、井原のほうでもそれぞれの地域の中でまちづくり事業をされている中で、芳井の一部の方から芳井が埋もれていく不安を持っておられるような発言を聞くことがありますが、そういった中で、地域の活性化事業の要素もあるのかもしれませんが、基本的には郷土愛育成のための事業だと思いますので、地元就職促進の要素も入っているとは思いますが。

**委員（西田久志君）** せっかく視察に行くということでございまして、要はいろいろ経験も豊富であり、失敗もありというようなところがいいということで、事務局に調べていただいたんですけど、経験が古いというか、事業の長いところはどこなんでしょうか。

**主査（柳本兼志君）** 実際に事業をされている期間については、全部はわからないんですが、糸魚川市は結構何年もされております。魚津は始められたばかりです。千曲市については、ある程度長期間実施しているような感じです。学者による研究とかもされておりますので、ある程度は継続して実施されていると思います。

ここから先は資料を見ていただけたらと思うんですが、七尾市は、事業期間が平成26年度からということで、5年以上はたっています。柏崎市のファンクラブ、ちょっとおもしろい事業なんですけど、平成28年度からでございますので3年程度はたっています。勝山市の

ふるさと回帰事業、帰ってこいよという趣旨の事業で、経済界を中心に地元就職なんかを中心にやられる事業ですが、平成29年度からですのでまだ2年ほどしかたっていないです。加茂市の産業保護政策でございますが、これは27年度からですので約5年です。最後の小千谷市も5年弱です。七尾市は多分ですが、もっと長いです。

**委員長（三宅文雄君）** それでは、まず事務局から提案のありました視察候補地から選出することについてはご異議ございませんでしょうか。

〈異議なし〉

**委員長（三宅文雄君）** 優先順位をつけて3カ所選出したいというふうに思いますが、どういった方法で進めていったらよろしいでしょうか。

**委員（多賀信祥君）** 方法ということではないんですが、提案させていただいた糸魚川市と魚津市っていうのは、産業・商業のテーマで行政視察先を2カ所提案させていただいてます。2年間の今期委員会で調査研究ですが、視察を含めて所管事務調査を積み重ねていくうちにストーリーができ上がって、それが井原市にとって必要なものであれば政策提言という形にしていきたいという思いがありますけど、調査する中で、そこまでの提案がないのであれば、無理やり提言する必要もないかなという気持ちが個人的にはしています。そういう中で、テーマをほぼ一つに絞って視察候補先を選ぶとなると、この期のこの委員会で通してやっていくテーマがそこに固まってしまうのが少し怖いと思うので、できたらこの中にも移住・定住だったり創業支援だったりというものがありますので、テーマを少しずらした視察内容の方がいいのかなという思いはあります。

**委員長（三宅文雄君）** それでは確認ですが、まず糸魚川市と魚津を優先して依頼する、こういった方向で進めていってよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

**委員長（三宅文雄君）** それでは、糸魚川と魚津を優先的に進めていくということで、残り1カ所をどのように決めていけばよろしいでしょうか。先ほど副委員長が言われたのは、同じテーマでないものもいいんじゃないかということでしたが……。

〈休憩中に委員間で視察希望先を調整〉

**委員長（三宅文雄君）** まず、最初の候補地は新潟県糸魚川市、それから富山県魚津市を2番目、その次に長野県千曲市を3番目、その次に補欠の候補地として福井県勝山市、それからその次の候補地を石川県七尾市というふうに決定してご異議ございませんでしょうか。

〈異議なし〉

**委員長（三宅文雄君）** 次に、今後の行政視察の準備につきましては、資料にありますとおり進めることとしてよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

**委員長（三宅文雄君）** その他行政視察に関しましては、委員の皆様から何か意見がございますでしょうか。

**委員（多賀信祥君）** 前回の委員会、また休憩中に話をする中で、各委員の興味があるテーマが幾らか出たと思うんですが、事務局に聞きたいんですけど、仮に1日1カ所で3日間の視察の場合、その一つの自治体で、今回でいうと例えば糸魚川市だったら地元消費啓発活動というテーマで入れとりますけど、例えばもう一つのテーマとして、道の駅を頑張っているということであれば、二つのテーマで視察の受け入れをお願いするということはあるんですか。

**主査（柳本兼志君）** 今までにも2つのテーマを一つの市で、こういう政策が聞きたい、こういう政策も聞きたいということで依頼をして、両方とも受けてもらったこともあります。別に、大分古い過去ですが、違う市でも、例えば朝いきなり視察をするスケジュールとして、移動して近隣の市へまた行ったという、1日で2箇所行ったことも過去にあると聞いております。

ただ、1日目は行く時間、3日目は帰る時間がありますので、なかなか2つの市町に行くことは難しいと思います。あと、一つの市町で複数テーマをお願いするのであれば、例えば2時間、2時間の4時間というのは向こうが難しいと思うんです。例えば1時間、1時間の2時間で2つというようなことであれば、引き受けをされる所が多いと思います。相手先の都合によると思いますが、十分それは可能だと思います。

**委員（多賀信祥君）** 仮にですが、視察先が決まった後、私が調べて、今この委員会で決定したテーマについてはこのとおりなんですけど、例えばもうちょっと調べる中で、千曲市に道の駅があって、それを現地視察したいとかというのを、後々提案をさせてもらっても



いいでしょうか。

**委員長（三宅文雄君）** ただいま副委員長から提案がございました。1つのテーマ以外に、ほかのテーマも視察したいというふうな計画をしてもよろしいでしょうか。

**委員（佐藤 豊君）** それは結構だと思います。今までも視察において市庁舎で説明を聞いて、それが終わってから、時間がありましたら、地元で今元気のいい道の駅がありますのでそこを見学していただいたらいいと思いますという先方からの申し出とか、こちらからお願いしたときに受け入れてもらったことも多々あるんで、そういったことはあってもいいんじゃないかというふうに思います。

**委員（西田久志君）** 私も結構だと思いますし、視察先に大きな負担がかかるようならあれなんですけれど、それこそ2カ所で1時間半か2時間ぐらいを限度として行けるのであれば、やっぱり視察研修ですから、いろんなところを見てみたいなのというはあるし、聞いてみたいということもありますんで、それは結構だと思います。

**委員長（三宅文雄君）** それでは、副委員長の言われましたような方向で、いずれにしても、先ほど事務局から説明がありましたけれども、初日と最後の日は難しいであろうということで、行く時間、帰る時間を含めて、どうしても2日目に複数の視察をするというふうな方向で進めていかなければならないのではないかなというふうに思います。

それでは、こういった方向で進めていきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

〈異議なし〉

**委員長（三宅文雄君）** それでは、以上で行政視察については終わります。

こちらからは特にございませんが、委員の皆さんから何かございますでしょうか。

〈なし〉

**委員長（三宅文雄君）** 以上をもちまして建設水道委員会を閉会いたします。

○議会への提案内容

内 容	協議先
◎高屋町に、特に、幼児が遊べるような遊具のある公園がない。  ◎公園の遊具やトイレが汚い（高屋町 池田公園）。	建設水道

【回答（素案）】

この度は、井原市議会へご提案いただきありがとうございます。

〇〇様からいただきましたご意見・ご提案につきまして、井原市議会から回答させていただきます。

「◎高屋町に、特に、幼児が遊べるような遊具のある公園がない。」というご意見・ご提案について、市の関係課（都市施設課 62-9527）に確認したところ、「高屋町には、街区公園として、一丁目に定信公園、二丁目に橋詰公園、四丁目に坊地公園、五丁目に高屋南公園があります。それぞれの公園には、幼児も利用できる滑り台やブランコなどを設置しておりますので、幼児と保護者の方にご利用いただきたいと考えております。」とのことでした。

次に、「◎公園の遊具やトイレが汚い（高屋町 池田公園）。」というご意見・ご提案について、市の関係課（定住観光課 62-8850）に確認したところ、「池田公園につきましては、地元の高屋自治連合協議会に、公衆便所の清掃をはじめ、施設等の異常発見時の報告などの管理業務を委託しているところですので、同協議会と連携を図りながら、適正な維持管理に努めてまいります。」とのことでした。

議会におきましても、市の実施する各種施策や関係団体の実施する様々な事業に注視してまいります。

今後も市民の皆様からのご意見等を伺いながら、市政発展のため活動してまいりますので、よろしくお願いいたします。